第 18 回 SCCT 研究会参加報告

華岡青洲記念病院　山口隆義

皆様こんにちは，華岡青洲記念病院の山口です．北海道もすっかり秋となり，暗―い中で帰宅する季節になりました．あの，暑すぎた夏が懐かしいですね．そんな中，9 月 14 日に開催されました第 18 回 SCCT 研究会に参加してきました．最近は，秋葉原コンベンションホールの定地開催となっておりまして，昨年は自治医科大学の真鍋先生が大会長のもとで開催され，私も演者としてお声がけ頂き，心筋遅延造影の技術的なお話をさせて頂きました．今年は，岡山大学の三好先生が当番会長で，私の役割はありませんでしたが，常に心臓 CT に関する最新の情報が飛び交う会ですので，自己研鑽で参加しました．

今回の研究会で印象に残ったのは，冠動脈 CT によるプラーク評価です．CT ファースト時代になり，中等度リスクの患者には積極的に冠動脈 CT が施行されるようになりましたが，虚血性心疾患の診断ストラテジーの中に冠動脈 CT が組み込まれる事で，中等度のプラーク病変が発見され，それを契機に薬物療法が開始される事によって，将来的な ACS 等の予後を改善するというのが複数報告されており，改めて冠動脈プラーク評価の重要性を認識する必要があるとのお話です．これって，とても重要な事で，待機的な PCI 件数は減っていますが，ACS の数はむしろ増えている状況です．これを何とかしたい訳ですが，ここに冠動脈 CT が介入する事によって，将来的に ACS を減らせる可能性があると思います．それには，私たち診療放射線技師が努力をして，25～50%程度のプラークも正確に評価できる画像を提供する必要があります．我々の力で ACS を減らせる事が出来たら最高ですよね．私が代表を務めている JACTEC では，このような事も目標に活動していますので，今後の JACTEC にも注目して頂けますと幸いです．

そのほかでは，数値流体力学に関する解りやすい解説や心筋血流

CT などの報告があり，deep learning に関しては，キヤノンの SR-DLR である PIQE や motion correction である CLEAR motion cardiac も紹介されていました. 今年の 11 月には当院にも INSIGHT Edition が導入される予定なので，とても楽しみにしています.

午後に行われた Top 10 paper in 2023-2024 は，東邦大学医療センター大森病院の中西先生が毎年ご担当されており，心臓 CT の最新論文を紹介頂けるコーナーです. 今年は, やはり AI による冠動脈 CT 解析の論文が多くなっているという事で，近い将来，FFRCT と同様に冠動脈 CT のボリュームデータを送るだけで詳細なレポートが返ってくる時代になりそうです．また，今年改訂された ESC による Chronic coronary syndrome(CCS)のガイドラインでは，Coronary artery disease(CAD)の検査前確率が低い場合には，さらに低い確率の患者を特定するために冠動脈石灰化スコア撮影(CACS)を考慮するとなり，CACS が再注目されるであろうとのお話もありました.

続いて開催されました教育セッションでは，Structure Heart Disease に対する心臓 CT の役割についてお話がありました．TAVI は勿論ですが．今後は左心耳閉鎖術や人工弁を TAVI と同様に置換する経皮的僧帽弁置換術に対しても心臓 CT が必須の時代になるであろうとの報告がなされておりました.

このように，たった 1 日で多くの情報が得られる SCCT 研究会は，参加する価値大です．来年は愛媛大学の城戸教授が当番会長なので，より楽しい企画に期待したいと思っています．来年も行きますよ！

宿泊先近くの老舗人形焼板倉屋さん